

中国軍用機は西太平洋海域において定例訓練を実施

人民網 2013 年 09 月 10 日 07:49 ソース：京華時報

阿部信行

(訳者コメント)

最近の中国艦船、中国軍用機の太平洋進出訓練について日本のマスメディアの報道に回答する形で人民網に記事がありましたので紹介します。

中国軍としては、第一列島線を超えて訓練を行わなければ自国の資源が集中する大陸沿海地区を防衛することが出来ないと認識しています。日本が神経質になって大きく報道するのが気になるようで、今後はこの訓練方式が常態化するので、日本のマスメディアに対し、考え方を改めるよう助言？しています。

話題は変わりますが、韓国のヘリ空母”独島”が最近火災を起こし、エンジンルームに注水したので現在漂流中とのニュースが人民網に掲載されていました。

日本の媒体は、中国の轟-6 型爆撃機 (H-6) 2 機が 8 日沖縄等の海域を經由して飛行したと報道した。この報道に対して、中国国防部は、昨日公式ウェブサイト上で、「中国軍用機は西太平洋海域で定例訓練を行った、この訓練は特定の国家や目標を対象にしたものではない」と述べた。

日本側：戦闘機を出動させ監視飛行を行った

日本の NHK テレビは 9 月 9 日、日本の防衛省情報を引用し、「8 日午前、中国の“H-6”爆撃機 2 機が沖縄島と宮古島の間の公海上空を 2 回通過した。航空自衛隊は戦闘機を緊急出動させて警戒にあたった」と述べた。

防衛大臣小野寺五典は 8 日午前、媒体に対して“中国爆撃機の今回の飛行は初めての特異な飛行であり、航空自衛隊は戦闘機を出動させた”と述べた。また小野寺は「日本政府が釣魚島に対し“国有化”する方針を決定してから 9 月 10 日で 1 周年になる。“1 周年が到来したこの時期、日本は警戒監視を怠ることなく、毅然とした対応を採る”」と述べた。

知るところによれば、昨年 9 月 11 日の日本政府による釣魚島“国有化”以来、東海海域に飛行する中国機に対応するため航空自衛隊の緊急発進回数が増加しているという。

中国側：海軍機の定例訓練である

日本側の反応に対して、昨日、中国国防部は公式ウェブサイトで回答した。国防部ニュース事務局は「中国人民解放軍海軍航空機は、最近西太平洋で訓練を行った。これは年度計画に含まれる定例訓練であり、いかなる特定国家も目標も対象にしたものでなく、関連国際法と慣例に符合している。中国は、関連海域を自由に飛行する合法的権利を有する」と述べた。

専門家の話：

爆撃機は遠海に飛んで行かないと能力を確認できない。

かつて海軍戦略研究所所長であった尹卓は、取材を受けた際に次のように述べた。「爆撃機訓練は、中国海軍訓練の中心に位置づけられる。中国軍の爆撃機は広西省から離陸し、台湾以東に至り、バシー海峡を通過する。これはかつて早い時期に先例がある」と。

尹卓の分析によると、長距離爆撃機の攻撃範囲は 2000 km を超え、第一列島線内だけの訓練では戦術訓練にならない。列島線を飛び越えて遠海に進出して初めてその最大作戦半径及び大航程の優越性を確認できる。また 2 機の H-6 爆撃機が西太平洋に進出して訓練を行ったことは、今後中国海軍艦艇及び航空機の遠海での訓練が常態化することを示している。

リンク：

中国軍艦、軍用機の遠海訓練はすでに常態化

2013 年 7 月 24 日、日本の防衛大臣小野寺五典は、「中国軍の“Y-8”型機 1 機が本日沖縄本島と宮古島間の公海上空を飛び越え、日本の戦闘機が緊急発進した」と述べた。日本の媒体は、「これは同空域を通過して太平洋に進出したことが確認された初めての中国軍用機である」と述べた。

翌日、中国国防部スポークスマン耿雁生は、「中国海軍艦艇編隊が西太平洋海域に進出し遠海訓練を行った。これはすでに常態化しており、初めての訓練ではない。“中国軍用機が西太平洋海域に進出したのも、第一回目ではない”と述べた。

資料・H-6 爆撃機

H-6 爆撃機は旧ソ連の中型ジェット爆撃機 (TU-16) を中国が模倣生産した機体である。同機は 2 機のツマンスキー型ジェットエンジンを搭載、翼型は後退

翼である。同機の主要任務は戦術、戦略爆撃、偵察、対艦攻撃、パトロール監視等である。主要な欠点は、搭載量が小さいこと、速度が遅いことである。

H-6 爆撃機は現在でも中国軍の戦略爆撃戦力の核心であり、不断に動力系統、航電系統、搭載武器システムの更新を図ってきた。同時に同機を基礎にして多種類の特種プラットフォームを開発してきた。同機は少なくとも 2020 年前後まで就役する予定である。

関連ニュース

軍事演習“使命行動-2013”今日から開始（翻訳省略）

（編集責任者：覃博雅、楊牧）

以上